



学校だより

令和4年4月 25 日 宇和島市立立間小学校

飯館村の「あたりまえをありがたいと思う日」

坂本 新一郎

始業式で『素直に感謝できる人になりましょう』という話をしました。平成 30 年7月豪雨災害や新型コロナウイルス感染症拡大などの影響で、私たちは、それまでは当たり前できていたことができなくなり、当たり前だと感じていたことに有難さを感じるようになりました。令和4年度は、この感謝の気持ちを素直に表現できる児童の育成を目指していききたいと思います。

ところで、東日本大震災と原発事故の影響で6年にも及ぶ全村避難を経験した福島県飯館(いいたて)村では、3月11日を「あたりまえをありがたいと思う日」としてメッセージの発信を行っています。福島県内外から寄せられた「あたりまえの日々への感謝」のメッセージには、さまざまな人が感じた『有難さ』が込められています。その一部を紹介いたします。

あたりまえだと思っていた庁舎内のトイレや喫煙所が、貴女(あなた)のおかげでいつも綺麗でした。ゆり子さん、ありがとう。

あたりまえだと思っていた私の名前が、沢山の願いで彩られたとっておきの言葉でした。おかあさん、おとうさん、ありがとう。

あたりまえだと思っていた母の味が、自分では再現できない特別な味でした。お母さん、ありがとう。

あたりまえだと思っていたレジ袋が、なくても大丈夫でした。エコバック、ありがとう。

あたりまえだと思っていたおかえりのあいさつが、一日の疲れを飛ばす魔法の言葉でした。本当に、ありがとう。

立間小学校のいろいろな所で「ありがとう」の言葉が響き合う、そんな立間小学校にしていきたいと思っています。みなさんも、「あたりまえだと思っていたけれど、実はとてもありがたいこと」を言葉で表してみませんか。

ようこそ立間小学校へ！ 入学式

希望に胸を膨らませ、新入児童6名が本校の門をくぐりました。校庭の花々が、かわいい6名を温かく見守っているようでした。

花のアーチの中を新入児童一人一人が笑顔で入場しました。また自己紹介の時は、自分の名前や好きな遊びなど、はっきり言えました。そして校長先生からの式辞に「ありがとうございます。」ととても立派な態度で返事をしていました。

在校生を代表して6年生の岡田一純さんが、「歓迎の言葉」を発表しました。その言葉どおり、登校班や清掃班の活動、休み時間などには、優しい上級生として、1年生に接する姿が見られ、とても温かく、うれしい気持ちになりました。



令和4年度スタート！ 立間小教職員の紹介



※ 子どもたちのため、地域のために一所懸命頑張ります。よろしくお願いたします。

校 長	坂本新一郎	総括
教 頭	吉田 昌弘	P T A事務局
教 諭	濱本 星子	1年担任
教 諭	赤松安季枝	2・3年担任
教 諭	藤田美由紀	たちばな学級担任
教 諭	松田 翔平	4年担任
教 諭	高田 和浩	5・6年担任
養護教諭	松下 美和	保健・給食
講 師	堀尾 恭子	音楽専科・支援員
支援員	尾下 睦子	学校教育活動支援員
用務員	白石 薫	用務員